

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770104848		
法人名	社会福祉法人南の風		
事業所名	グループホーム アル・ソーレ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市堺区甲斐町西2丁1-15		
自己評価作成日	令和3年1月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2770104848-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「その人らしい人生を全うしていただけるよう私たちはプロとしてお手伝いいたします」という言葉を常に心がけ、その人らしさとはいうことを理解する努力を重ねています。コロナ禍にて今年度は特に思うように十分な活動が出来ていませんが、複合施設ならではの協力体制で、単独では難しいと感じることに柔軟に対応を行い幅のあるサービス提供を心がけています。誰もが不安を感じるこのご時世に、少しでも安心と楽しい時間を提供できればと職員一同努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根を張る医療法人を母体として設立された社会福祉法人が運営するグループホームです。堺市の中心部の商業地に位置し、特養、デイサービスを併設した7階建て複合施設の5・6階にあって、利休や南蛮デザインを取り入れた趣のある居住空間には、職員と利用者が一緒につくる温もりのある作品が溢れています。ホームには看護師も常勤し、法人母体の病院との医療連携と複合施設ならではの協力体制を強みとして、法人理念でもある「その人らしさを全うする」プロフェッショナルな介護を行っています。職員は原則、利用者担当制として一人ひとりと深く関わる一方、「利用者にとって家族に勝る存在はない」というホームの考えのもと、家族の絆を第一として利用者の思いや意向を反映した介護計画書に基づく個別ケアを実践しています。(※コロナ禍の中での評価実施のため、現場は写真資料により確認しました)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝いいたします」を理念に掲げ、地域の資源を活用しながら、地域に支えていただき、又、地域に貢献できるような取り組みを他サービスと協力して取り組んでいます。	「その人らしい人生を全うしていただけるよう、私たちはプロとしてお手伝い致します」が法人の理念です。建物の1階エントランスホールや、各ユニットの玄関口に文言を布のタペストリーで額装して掲げています。また、「利用者にとって家族に勝る存在はない」との考えから、ホーム独自に「利用者と家族が共に暮らす楽しい時間のお手伝いをいたします」という理念をつくっています。管理者や職員は家族の絆を大切にして利用者と家族を支える中で「その人らしさ」を考え、支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域のふれあい喫茶や祭り、イベントへの参加。又、ホーム行事への招待やボランティアとしてお手伝いに来ていただいていた。近所の保育園との交流も行っていましたが、コロナ禍によりほとんどの活動は自粛しています。	地域の活動がすべてコロナ禍で中断する中、住民代表でもある民生委員と個別に意見交換し、近くの保育園とは避難訓練や備蓄を通して交流しています。アクティビティに利用者が職員と一緒につくったマスクやエコバックの生地は、地域の鍼灸院から「余り布があるから」と寄贈されたものです。管理者は地域との関係性が途切れないよう配慮しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	堺市・堺区のグループホーム連絡会に所属し、地域包括や保健センターなどと協力した認知症パネル展・イキイキサロン・講習会などの啓発活動に参加しています			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括との情報共有、取り組みや課題などでのアドバイスをいただくなど、参考にさせていただいています。コロナ禍ではすべて書面と電話のやり取りとさせていただいています。	運営推進委員会は利用者・家族・住民代表・地域包括とホームの職員が参加して2カ月毎に行っていましたが、コロナ禍の中では書面と電話で意見交換を行っています。書面ではホームの利用状況やコロナの感染予防対策や行事をメインに報告し、電話や個別面談で意見や助言をもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や連絡会などでの相談、災害対策などの情報など確認又、地域の見守りネットにも協力しています。	堺市には事故報告書や外部評価を提出するほか、行政との協力相談体制を築いています。市と区それぞれのグループホーム連絡会に加入し、同業者間で情報交換を行っています。会合が難しい昨今ではSNSを活用して空室状況等を発信し、利用者のスピーディーな入居につなげています。認知症の啓蒙活動を目的として地域包括や保健センターなどと協力して毎年2月に市役所で開催される「認知症パネル展」にも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会を通じて、知識と方針など含めた意識統一を図り、利用者が穏やかに安定した生活を送っていただけるかを考え、職員一人一人が自覚を持ち取り組んでいます。又、家族の思いに耳を傾けることができるよう、コミュニケーションの機会を大切にしています。	特養やデイサービスと合同で「身体拘束委員会」を開催し、法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。そのためホームではフロアの玄関にメロディセンサーを取り付けている他は、日中1階玄関やエレベーターにも鍵をかけていません。車椅子使用の際、安全対策として抑制を希望する家族に対し、身体拘束をしないホームの方針を伝え、納得してもらった事例があります。スピーチロックもしないよう注意しています。管理者は「コロナ禍で外部からの目が入りにくい今だからこそ、職員同士声を掛け合いたい」と話します。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を通じて、知識を深め、各職員が自覚を持ち取り組んでいます。いつの間にか出来てしまった打ち身などにも目を向け報告書を作成することでより安全で細やかなケアが出来るように心がけています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在数名の利用者がそれぞれのニーズで成年後見制度を利用されています。家族からの相談なども含め、NPO団体からの協力をいただき、その都度指導、助言をいただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・契約書などの書類は、見学時に事前にお渡しし、当日にも再度説明と質問を受け付け、理解と協力を得ています。サービス利用に対して、家族・利用者の不安を少しでも軽減できるよう、ゆっくりとお話を聞かせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のかかわりの中で、気軽に相談していただけるよう、面会時には近況報告を兼ねてお声掛けをさせていただくなど話しやすい、聞きやすい環境に心掛けています。コロナ禍ではさらにこまめなコミュニケーションを心がけています	家族の面会時には積極的に職員との面談の時間も作り、利用者の要望や希望を叶える方法を一緒に話し合っています。管理者やリーダーは、利用者や家族の小さな疑問や運営に関する意見や要望にも耳を傾け、応えるように心掛けています。 非常事態宣言下での面会は、1階の面談室からタブレット型端末機を通して実施するほか、利用者や家族の状況やニーズに応じて臨機応変に対応しています。 ホームでは利用者担当制を導入し、担当者から毎月1回、利用者の日々の様子を詳細に記入した「利用者連絡票」を家族に郵送しています。個別のメッセージが入った手書きの便りは、ホームや職員に対する信頼につながり、話しやすい関係づくりに一役買っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のフロア会議を行う際は、事前に議題を集めておき、時間を有効活用できるように心掛けています。又、申し送りの場を活用し、急な事態にも相談、対応できるように努めています。それらを運営会議にも反映させています。	職場はフラットで風通しのいい環境です。リーダーは日々の申し送りや月1回のフロア会議時のほか、SNSも活用して職員とスピーディーに連絡を取り合い、意見を吸い上げています。 職員はとくに日々のアクティビティや行事の内容について、インターネット等で情報を集め、新しいアイデアをどんどん提案して実施運営しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内又、グループ施設間での事例発表会など、職員のニーズや必要性など内容に応じたものを取り入れています。自己評価を作成し管理者との面談などコミュニケーションを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会委員を中心に、計画を立て、スキルアップに取り組んでいます。又、資格取得に対して、講習会を開くなど、それぞれの意欲にサポートできるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市グループホーム連絡会の活動を通じて他施設との情報交換や取り組みを参考にさせていただきながら、自施設のサービス向上に役立てています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安に対しては家族にできる限りの協力で寄り添っていただくようお願いしています。少しでも安心して過ごしていただけるように状況に応じた臨機応変な援助を行う準備をします。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で現状の課題と入居時に関しての不安に寄り添い、それぞれの応じた受け入れの提案をしています。コロナ禍では十分な面会や外出が出来ないという事もありますが、対話を重ね希望に寄り添えるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズの把握に努め、ニーズに応えるための手段をいくつか用意するように心がけています。その中から良い方法を一緒に選んで頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすということを大切に、日々の関わりの中で自己選択・決定の機会を多く持つように心掛け、興味を持っていただけるような取り組みを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	以前はホームの余暇活動などの参加や日帰り旅行の参加、食事介助・衣類整理など。コロナ禍においては難しくなっていますが、家族から協力できることがあれば言ってねと声をかけてくださっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力もいただきながら今できることを大切に心をかけお手伝いできるように努めていますが、コロナ禍においては電話やリモート・手紙によるやり取りのお手伝いとなっています。	ホームでは手紙や電話の支援に力を入れています。例えば、利用者宛てに贈り物が届くと、職員がパソコンで礼状を作成し、本人の肉筆で名前や一言メッセージを書き添えてもらうなど、きめ細かな対応が本人や家族に喜ばれています。コロナ禍以前には、馴染みの美容室や、誕生祝いに利用者の大好きなコーヒー店に同行するなどの個別支援も行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り工夫しながら活動などを通じて自然なかかわりが持てるような雰囲気づくりに取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係施設、病院など、サービスが移っても面会に訪問させていただいています。又余暇活動の提案や、定期的にベランダ園芸の手入れや相談、植え替えにも来て助けてくれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中でも、生活歴や環境、なじみを重要視し、日々の関わりの中での気づきや、利用者の思いを大切に、家族・職員間での情報の共有に努めています。	利用者の「思いや意向」「その人らしさ」を大切にするホームでは、入所時のアセスメントに注力しています。例えば、ホームオリジナルの「暮らしの状況シート」は、生い立ちや入所前の暮らしだけでなく、好きな色や服の好み等などの志向が書き込める仕様。これを家族に記入してもらい介護計画書の作成に反映させています。 入所後も職員は利用者の旧姓や孫の名前、ゆかりの地、好きな作業や好みの音楽・テレビ番組など、新たな情報をキャッチする都度、記録して共有しケアに活かしています。管理者は「こうした情報を知っているだけで会話が弾み、笑顔につながる」と話します。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントの一部をお渡しし、なじみや好みなど、家族間で相談しながら記入していただけるようにして情報をいただいています。その際にはなぜその情報が必要なのか等も説明を加えるように心掛け、理解を求めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中での思いや変化に対して気づきを大切に、記録に残し、情報を共有しながら、利用者の状態把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前の情報収集をフロア会議の中で意見をまとめ、家族にもその都度確認したことを反映させるよう努めています。毎月送付する手紙も活用しています。	介護計画は毎月行われるフロア会議でのカンファレンスを経てモニタリング。6カ月毎および変化があった都度見直し、見直した計画は利用者や家族の同意を得ています。計画作成に当たり作成担当者は「利用者さんが今できる間に、できることを」と心掛けています。職員は利用者一人ひとりの思いや意向を盛り込んで目標設定した介護計画に基づいた個別ケアを実施し、法人の理念でもある「その人らしさを全うするサポート」に繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の関わりの中でみられる変化に注意し、言動、行動、体調の変化など、皆で記録に残し、共有しながら必要な対応が素早くできるように心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設内の協力と、関係施設などとも協力体制ができており、必要に応じて柔軟な協力を受けることが出来ています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍においては地域活動も制限されていますが、市町村などの情報収集に心がけ共有しながら目まぐるしい変化にも対応できるよう努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の定期的受診、緊急時の対応、その他必要に応じた医療を受けるにあたっての相談と確認を行い、家族の協力のもと、かかりつけ医との連携も大切にしています。	連携病院の内科医師による定期健診は月2回ですが、併設の特養やホームを頻回しているため、利用者の全員が提携医をかかりつけ医として選んでいます。常勤看護師もかかりつけ医と連携し、利用者の体調管理に積極的に関わっています。歯科、皮膚科の医師の往診もあります。ホームでは利用者の日々の体調と合わせて受診結果を詳細に家族に報告しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は介護にも積極的に参加協力してくれており、医療の視点で日々の変化にも素早く対応してくれている。他部署看護師や診療所の看護師とも連携し、利用者をみんなで支えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会と、看護師や医師・相談員に状態の確認を行い、退院に向けての助言や指導などもいただきながら早期に退院できるように支援しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の看取りに関する指針をもとに説明し、同意をいただき、実際に対応が必要になったときは、家族、医師、看護師、栄養士の連携のもと、援助の方向性を確認しつつ、できる限りの必要な援助に努めています。又、利用者にとって必要な支援が受けられる環境も視野に入れ、より良い方向に支援できるよう努めています。	法人の母体となる医療機関や併設する特養との連携体制により、重篤化した場合や終末期に向けては本人や家族の意向を踏まえ柔軟に対応しています。看取り介護指針に沿って検討会も実施しています。職員は利用者の看取りを通して学ぶ事も多く、人生の最後に立ち会えた事に感謝しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や講習会で心肺蘇生法やAEDの使用方法を学び、ホーム内での緊急マニュアルをその都度見直し、確認を行い、実際の対応に備えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で災害対策委員会を設置、マニュアルの作成、見直し、年2回の消防立会い含めた避難訓練、南海地震を想定した備蓄などの準備・確認など、その都度考えられる状況に応じた備えができるように心掛けています。又、地域のグループホーム連絡会での情報交換と取り組みの共有を行い、近隣の保育園児の避難場所の協力体制等も整えています。	地震、火災、水害の災害毎に対策をマニュアル化し、消防組織編成表も作成しています。コロナ禍の中で夜間、昼間を想定した施設独自の訓練を年2回実施し、消防署に報告書を提出しました。自家発電機を設置し、備蓄品は賞味期限一覧表を基に管理保管しています。交流する近隣保育園の避難場所にもなっていて、おむつ等もホームで備蓄しています。災害に備えた感染症予防対策の勉強会も実施しています。(※備蓄等は写真等で確認)	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴など、それぞれの状態に配慮しながら、1人1人個別に対応しています。サービスマナー・個人情報保護などの勉強会も取り入れ、意識の統一に努めています。	個人情報保護方針を職員で共有し、特にSNSやブログ発信における個人情報の取り扱いについては注意喚起しています。不適切な言動が生じた場合、リーダーは話し合いの場を持ち問題点を共有しています。排泄支援について職員は「お手伝いさせていただいている」という気持ちをもって接しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムの飲み物や、おやつバイキングなど、生活のちょっとした場面での自己選択・自己決定が出来るように意識して取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の予定を固めるのではなく、天候や気温、利用者の調子や気分。職員の状況に合わせて支援できるように、臨機応変ということを常に大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身支度援助だけでなく、行事の際には違った気分に参加できるようにおしゃれを楽しんでいただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好の調査を行い、献立によっては、別メニューの提供や、状態に応じた軟菜・一口・刻み・とろみ・ソフトなどの提供も行っています。利用者の意欲に応じて家事動作も参加されています。	食事は副食を併設の特養で作り、白飯のみユニットのキッチンで炊いています。 この他、利用者は職員と作るホットケーキやたこ焼きなどおやつレクリエーションや、寿司職人の協力を得て作りたてを味わう寿司パーティーを楽しんでいます。 法人が開く給食委員会やメニュー会議では味や献立等を検討するほか、新作メニューの提案も行い、利用者に寄り添った食事を提供しています。 (※食事の様子は写真で確認)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がたてた献立のもと、摂取量の確認と、嗜好の確認を行いながら、管理栄養士・看護師・医師との連携のもと、アドバイスや指示をいただいています。水分補給には好みの物や、状態に応じて用意工夫をします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシやカーゼなどの道具を使い分け、利用者に応じた援助を行っています。希望者は毎週金曜日の歯科往診で口腔ケアとチェックを行い必要に応じて受診しアドバイスや治療を受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期と随時、必要な排泄用品で援助を行い、状況を記録。可能な限りトイレに座る事を大切に援助しています。	利用者のほとんどが布パンツや紙パンツを着用しています。日中は排泄記録を作成して排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導して自立支援につなげています。 夜間については、トイレ誘導希望の方以外は熟睡のため紙オムツ対応です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態把握に努め、情報を整理し医師に相談し指示やアドバイスを頂く。又家族・栄養課とも協力し、オリゴ糖等も活用。様子を見ています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、毎日でも、午前でも午後でも臨機応変に入れる準備はあります。拒否されることが多い中でも、3日に1回は必ず。を目標に、午前ダメなら午後から、今日がダメなら明日といったように援助しています。	入浴日・時間を決めず臨機応変に対応し、利用者は週2～3回必ず入浴しています。浴室は広く介助しやすい構造になっており、転倒防止用のマットが敷かれ利用者は不安なく入れます。入浴拒否の利用者には声掛けの工夫をしています。入浴清拭の支援も行っています。 入浴を楽しむ工夫として柚子湯や菖蒲湯など季節の湯を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時は、共有スペースでお茶しながら過ごして頂いています。それぞれのペースで過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療用のファイルに内容の一覧と処方箋のシールをまとめており、お薬手帳の役割も備えています。指示や変更も申し送り確認。服薬確認表の活用で、服薬漏れの内容に注意。問題が発生したときには医師に確認。早期対応に努めています。又、嚥下や理解の問題で服薬しづらくなれば医師・薬剤師とも相談し薬の形状や種類の工夫等の協力も得ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	壁面に飾る季節の制作物が最近では中心。その他はカードゲームや歌などが人気。コロナ禍ではマスクを手作りしたり、利用者とYouTubeを見てチャレンジできそうなものを探したりしました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍においては様々な立場でのご家族の意見もあり、施設の判断として控えさせていただきました。	コロナ禍で外出が難しい中、ホームでは楽しいアイデアで利用者の気分転換や屋内散歩を促しています。たとえば職員と一緒に作るエコバッグやマスクもその一つで、完成後、利用者は作品を身に着けて写真を撮り、外出気分を味わいました。 この他、廊下にあるピアノを弾いたり、ベランダに出て外気浴や菜園を楽しんだり、居間で赤ちゃん人形をあやす利用者もあります。(※職員の聞き取りと写真で確認)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解のもと、自己と家族責任のもとお金を手元に持っている人もいます。基本必要なものはほぼ家族が持参。手元のお金は減ると寂しく被害妄想へと移る事が多い為、居室の手の届かないところに家族が管理して外出時に持って行ける小遣い袋を置いて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族などには手紙を書くというのが難しい人は写真画像を添えて代筆したり工夫しています。コロナ禍では話が出来る人は電話で話をすることも増えました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の掃除に加えて、木・金曜日は衛生日とし、ゴミ箱類の洗浄や、キッチンや加湿器、その他の消毒日に充てている。室温、換気にも注意している。又壁などには利用者と職員が協力して作った季節の飾りがあり。季節ごとにとそろそろ変えないとね。何にする？など楽しみながら取り組んでいます。	各ユニットの生活空間は堺市らしく、それぞれ利休や南蛮ゆかりのモチーフを取り入れ、手作りのオブジェで季節感を演出しています。 コロナ禍の中、スタッフルームには家族から寄せられた職員に対する感謝や労いのメッセージが掲示されています。 トイレ、ゴミ箱の洗浄、キッチン消毒を定期的に行い、衛生管理に努めています。ベランダにはプランター菜園もあり、緑を感じることができます。(※職員の聞き取りと写真で確認)	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが落ち着く、好きな場所で過ごせるように椅子やソファを配置。7階にも空間があり、施設の取り組みとして遠方の親せきなど大勢のお客様にも対応できるよう。おもてなしの食事会企画であれば食事の準備や出前の段取り、テーブルの配置など、軽いお茶であればその準備を自分の家でもてなすように支援できればと考えています(要予約)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のものは家族に任せています。入居時には、使い慣れた物を、なじみのある物をと、その理由と共に説明しています。	障子のある和室と木の温もりのある洋室は、それぞれ趣があり車椅子でも生活しやすいようにゆったりとしています。 ベランダに面した掃き出し窓は、換気部分のみ開閉可能にし、外気に触れることもできます。 利用者は家族の協力で家具や家族の写真、馴染みのあるもの等を持ち込み、自分らしく安心感に包まれて暮らしています。(※聞き取りと写真で確認)	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫次第で出来る事。という事を常に考え、説明書きを加えたり、つりさげの表示を作ったり、リスク管理では先回りして環境整備するなど心掛けています。		